



「水の週間一斉打ち水大戦略 in国土交通省」を開催しました！

土地・水資源局 水資源部水資源政策課

平成21年8月3日(月)に中央合同庁舎3号館正面玄関前にて、「打ち水」を実施しました。国土交通省の職員の手で行う「打ち水」も本年で6年目となり、恒例行事として徐々に定着してきました。

本年度より、水の貴重さや水資源開発の重要性に対する国民の関心を高めるために制定されています「水の週間」の関連行事の一環として「水の週間一斉打ち水」と銘打って、8月3日(月)12:30より1時を指定し、全国各地で一斉に打ち水を実施しました。

7月下旬から8月上旬にかけて天候が不順だったため、当日の天候が心配されました。しかし、多少雲はありましたが、気温は30.0℃を超えるという真夏日で、ますますの「打ち水」日和となりました。

今年は、甲村技監をはじめとし150名程度の職員に参加いただき、また、20名を超す色鮮やかな浴衣姿の女性職員にも参加いただきまして、とても華やかな「打ち水」になりました。

今回、打ち水に使用した水は460リットル。もちろん水道水ではなく、中央合同庁舎3号館地下2階のお風呂の残り湯を60リットルと、東京都下水道局より提供していただいた下水再生水を400リットル使用しました。東京都下水道局には毎年ご協力いただいております。今年も多く職員の方が開始1時間前に会場に来ていただき、下水再生水をプールに移し替えるなど「打ち水」の準備をしていただきました。

打ち水は、甲村技監による本年度の「水の週間のテーマ」である「水を大切に使う社会」の重要性についてのお話につづいて、「打ち水〜、始め！」の掛け声とともに一斉に始まりました。柄杓、じょうろ、桶、ペットボトルなど様々な方法で、熱くなっている地面の上に撒かれました。100本以上用意したお風呂の残り湯を入れたペットボトルは、次々と空になり、400リットルの再生水もあっという間に撒かれ、会場は水浸しになりました。

程なくすると、「打ち水を一生涯命行なう職員の熱気と30.0℃を超す気温で、暑くなっていた会場を心地の良い風が吹き始めました。その風を体で感じることで、「打ち水」の効果を実感させられました。また、その効果は、数字にも表れており、湿度が高く薄曇りという条件ではあったため、例年と比較すると気温の下げ幅が小さいものの、たった数分で、31.8℃から31.1℃と0.7℃も下がりました。

残念ながら、まだ一度も「打ち水」を行ったことのない方は、一度ご家族やご友人を誘って、「打ち水」を試してみたいかがでしょうか。そして、「打ち水」の後に吹く爽やかな風を感じながら、水の有効利用について少しでも考えていただけたらと思います。